

見て・読んで
考えよう！

★NIEは、Newspaper in Education (教育に新聞を)の略です

レッツチャレンジNIE



第81回

今年度最後のレッチャレ中学生は、「子育て支援」について取り上げます。
県内の子育て支援体制の現状を伝える記事を読んで考えてみましょう。

2023年3月10日付琉球新報1面

県内ファミリーサポートセンターの会員登録状況

市町村名	協力会員数	依頼会員数	依頼会員数 1人当たり
那覇市	324	2703	8.3
宜野湾市	119	1402	11.8
石垣市	130	1198	9.2
浦添市	247	1803	7.3
名護市	163	769	4.7
糸満市	92	560	6.1
沖縄市	397	2855	7.2
豊見城市	97	904	9.3
うるま市	424	1392	3.3
宮古島市	142	273	1.9
南城市	113	503	4.5
本部町・今帰仁村・国頭村・東村・大宜味村・伊江村・恩納村・金武町・宜野座村	298	764	2.6
読谷村	247	917	3.7
北谷町・嘉手納町・北中城村	517	1471	2.8
与那原町・西原町・中城村	222	1188	5.4
南風原町	167	439	4.2
八重瀬町	104	439	4.2
竹富町	94	194	2.1
久米島町	60	118	2
座間味村	8	17	2.1
粟国村	0	0	1
渡嘉敷村	11	14	1.3
南大東村	20	11	0.6

県内では特に本島中南部の都市部で利用希望者が協力会員不足が深刻となっている。充足率は地域によって最大19倍超の開きがある。市町村などが運営し、使い勝手の良さから利用者が広がる中、支える側の確保が課題となっている。

協力会員1人当たり

県の依頼会員数が最も多かったのは宜野湾市の11.8人。那覇市は8.3人、豊見城市は9.3人、浦添市は7.3人、沖縄市は7.2人だった。ファミリーサポート関係者によると、これらの地域は子育て世代が多く、子の一時預かり支援の需要が高いのに対し、協力会員の確保が追い付かない状況と

なっている。うるま市は3.3人、宮古島市は1.9人と低めの市部もあった。石垣市は9.2人と離島地域でも高かった。

ファミリーサポートは市町村や市町村社会福祉協議会、NPOなどが運営する。協力会員になるには24時間程度の講習を受ける。各ファミリーサポートによると、日常的に協力会員として活動している人は登録数の3分の1程度で、実際は登録者数よりも厳しい運営となっている。ほとんどのファミリーサポートが「協力会員が比較的少なく、確保に苦労している」と語る。

用語

ファミリーサポートセンター事業 地域住民の会員同士で育児を支える。利用料は1時間600円程度が多く、有償ボランティアである協力(提供)会員が保育園や習い事の送迎、子の一時預かりを担う。市町村やNPO法人などが運営。事務所や職員人件費などの運営費を国、都道府県、市町村が3分の1ずつ補助する。1994年に旧労働省の事業で導入された。

ファミサポ協力者不足 子の一時預かり 中南部都市で深刻

乳幼児や児童の一時預かりなど支援を受けたい人と協力したい人が会員となり、地域で相互援助を行う「ファミリーサポートセンター(ファミサポ)事業」について、お迎えや預かりを手伝う「協力会員」の充足状況に地域によって開きがあることが本紙の調べで分かった。県内23地域のファミサポを対象に、協力会員1人に対する依頼会員数の割合を調べたところ、最も低い南大東村で0.6人だったのに対し、宜野湾市では11.8人に上った(25面に関連)

【1】「ファミサポ」とはどういう事業ですか。記事から抜き出して書きましょう。

【2】記事にある表から、どのような問題が見えてきますか。気づいたことをできるだけたくさん書き出してみましょう。

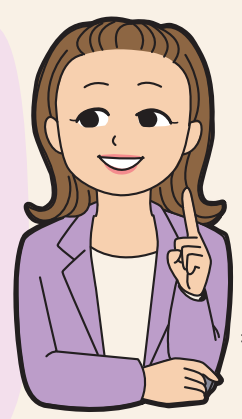
【3】【2】のような差が生じるのはなぜでしょうか。抜き出して書きましょう。

【4】この事業が充実していくことで、どのようなメリットがあると考えられますか。
(この日の25面の記事も見よう)

発展問題

自分が住んでいる地域で取り組んでいる子育て支援について、どのような支援が行われているかを調べてみましょう。

少子高齢化社会を迎えている日本ですが、子育て支援が充実している自治体はまだまだ少ないですよ。どのような制度があれば、安心して子育てができる社会と言えるのか、保護者の方へも聞いてみてください。



國吉美穂
NIEアドバイザー。
興南中・高校教諭

答えは15面にあるよ
(第3週掲載)